



2



3

Photo1 特別賞を受賞した市在住の田中さんら7姉妹。**2**ゲストには坂本冬美さんと夏川りみさんが登場。**3** 出場者の家族や友人が横断幕などを掲げ応援していました



1

文化会館開館 25 周年記念 NHK のど自慢を開催

8月27日、市文化会館の開館25周年とNHK宮崎放送局の開局80周年を記念して、「NHK のど自慢」が開催されました。前日の26日の予選には市内外から250組が参加し、その中から選ばれた20組が本選に出場。当日は、約1000人が来場し、出場者が日ごろから鍛えた個性豊かな歌声を披露すると、会場から大きな拍手が送られました。



2



3

Photo1 オープニングセレモニーで「せんぐまき」も実施。**2**女尻相撲大会の中高生の部の決勝戦。**3** 祭りのフィナーレは約3000発の打ち上げ花火。



1

女尻相撲大会が最終回 第33回のじり湖祭を開催

8月26日、第33回のじり湖祭が開催されました。ステージイベントや打ち上げ花火などを実施し、1万人以上が来場。27回続いた恒例の女尻相撲大会が今年で最終回を迎え、小学生、中高生、一般の3部門に33人が出場し、華を添えました。一般の部で優勝した末吉瑞絵さん(野尻町東麓)は「小学生以来の出場でした。最後の大会で勝ってて光栄」と話していました。

こばやし健康フェスタを開催 健康への理解を深める

9月2日、こばやし市民健康フェスタを中央公民館で開催しました。健康に関する知識や健康づくりの実践方法などへの理解を深めることが目的。約250人が来場し、血管年齢や骨密度、血糖値などを測る健康測定やお薬相談、肌診断チェック、体力測定などを行いました。



健康測定を行う参加者。その他、小学生以下を対象にしたスタンブラリー、輪投げやフリスビーターゲットも実施しました



奥田さんは「避難所に行けば助けてもらえると考えず、非常食などは自ら準備するべき」など非常時の備えについても話していました

住民同士で助け合う体制を 紙屋一徳防災フェスタ開催

9月2日、紙屋一徳防災フェスタが紙屋中学校で開催されました。地域住民ら115人が参加し、(特)日本災害救援ボランティアネットワーク理事の奥田和子さんが講演。九州北部豪雨での支援活動などを例に上げ、「住民同士の助け合いを自主的にできる体制を作ることが重要」と訴えていました。

長崎 戦争原爆被災展を開催 世界恒久平和について考える

8月30日から9月8日にかけて「長崎原爆被災展」を文化会館で開催しました。オバマ前アメリカ大統領から寄贈された折り鶴とメッセージ、原爆写真パネルや熱線で溶けた時計やビンなどの現物資料を展示。延べ2000人が来場し、原爆の恐ろしさと世界恒久平和について考えました。



8月30日、被爆者による講話も実施。長崎市の原田美智子さんが登壇し、「平和の輪が広がることを願っています」と話していました



ワークショップには20代から70代まで幅広い世代が参加。「まちライブラリー」は、みんなで本を持ち寄りつくる交流拠点です

本を起点に新たな交流拠点を 「みんなでつくるライブラリー」

8月27日、みんなでつくるライブラリーを中央公民館で開催しました。約60人が来場。江南跡地に建設中のTENAMUビルに設置予定の「まちライブラリー」について紹介した後、ワークショップを行いました。参加者からは「世代に合わせたコーナーを設置してほしい」などの意見が出ました。

「こころもからだも健康に」 コープみやざきで街頭 PR

がん征圧月間（9月）、自殺予防週間（9月10日～16日）に合わせ、9月15日、コープみやざき小林店で自殺予防、がん対策や特定健診などの街頭PRを行いました。健康推進員、こころの健康サポーターなど8人が参加。店内入り口で啓発チラシやグッズを配布しました。



PRには、こすもへも参加。こころの健康サポーターの大牟田佐枝さんは「心も体も健康に過ごせる人が増えてほしい」と話していました



訓示を述べる肥後市長。今後、旧庁舎を解体して駐車場を整備します。新庁舎のグランドオープンは来年3月の予定です

53年間の思い出を胸に 旧庁舎への感謝の集い

9月15日、旧庁舎への感謝の集いが行われました。市職員約150人が参加し、思い出のある旧庁舎に別れを告げました。肥後正弘市長は「53年間のさまざまな思い出が走馬灯のように思い返されます。旧庁舎への感謝の気持ちを忘れず、新庁舎でもしっかりと業務にあたってほしい」と訓示を述べました。

取り組みを紹介します

きずな協働体 今月は、細野地区

一人暮らしの高齢者へ火災警報器を設置！

（一社）全国消防機器協会の「住警器等配付モデル事業実施地区」に選ばれ、細野地区の一人暮らしの高齢者世帯へ住宅用火災警報器100個を無料で配付・設置しました。必要ではあるものの、一人暮らしでは設置までには至らないことが多いため、まずは地区の民生委員が、設置対象の高齢者宅を調査。西諸地区は設

置率が悪く、細野校区内では、未設置がほとんどでした。その後、集まった情報を元に地元消防団と部会員を中心に設置し、「警報器が鳴ったら、すぐ逃げてください！」などと住民に注意喚起し、火事から命を守る方法も伝えました。

今後は、防災訓練などを通じて地域の防災力向上を高めていきます。



火災はいつ、どこで起きるかわかりません。皆さんのご家庭でも住警器を取り付けましょう。

細野まちづくり協議会
安心安全部会長
徳永光治さん

キクのフラワーアレンジメント 重陽の節句にあやかり寄贈

9月5日、西諸地区花き振興会がフラワーアレンジメントを市に寄贈しました。9月9日の重陽の節句にあやかり、西諸地区を代表する花きであるキクを中心に作成。同会の大畑広秋会長は「キクの節句である重陽の節句を多くの人に知ってもらいたい」と話していました。



左から大畑会長と肥後市長、高津佐緒さん、高津佐雄三さん。重陽の節句は、五節句の1つでキクを飾り不老長寿や繁栄を祝う行事です

新規雇用30人を見込む 秘書センター(株)と立地協定

9月14日、市と秘書センター(株)との企業立地調印式がありました。秘書センターは、契約企業の電話受付代行業務を手掛ける企業で、昨年11月に開設した小林コンタクトセンターに引き続き第2センターと宮崎支所を開設。11月9日から創業予定で、新規雇用30人を見込んでいます。



伊藤壽朗代表取締役社長は「今後、さらに子育て中の女性やリターン者などの雇用をつくっていききたい」と話していました



同協議会の前田博俊会長は「申し分のない糖度のナシ・ブドウができました。多くの人においしく食べてほしい」と話していました

「多くの人に食べてほしい」 ナシとブドウの品評会開催

9月4日、市果樹農業振興推進対策協議会とJAこばやし梨ぶどう生産部会の品評会が開かれました。【以下結果・優等と金賞のみ・敬称略】◆豊水の部▼協議会…小原勇太▼JA…種子田健太郎◆ニューピオーネの部▼協議会…山之内俊光▼JA…永迫周一◆シャインマスカットの部…前田博俊



この取組は、平成元年から行われ今年で29回目。地域への貢献のため、この他にも出張理容サービスなども行いました

理容組合が地域貢献のため ボランティア清掃を実施

9月11日、県理容組合小林支部が市民体育館・中央公民館駐車場のボランティア清掃を行いました。地域貢献活動の一環で会員ら25人が参加。同組合の小出水秀樹支部長は「全国一斉に理容組合ボランティアを実施しました。今後も地域貢献のため続けていきます」と話していました。